

まつり・総務委員会担当副理事長方針

市岡 幸一

我がまち中津川を想う人々は、そこで暮らす事で感じるふるさとへの愛着と、未来への責任を考え、地域社会で情熱を持って「公」のために行動を起こしています。そんな市民が一人でも多く増え、まちの発展に寄与するために、中津川青年会議所は常に歩みを止めず、未来を見据え、全ての物事に挑戦していく事が必要であり、その行動こそが「必要とされる組織」へとさらに発展するのだと考えます。

中津川夏まつり「おいでん祭」は先輩諸兄のふるさとへの想いと、未来への情熱により、“誰の心にも繋がるふるさとのまつり”を目指し、今日まで継承してきました。31回目を迎える本年度は、「おいでん祭」に参加する事で得られる達成感や優越感を多くの市民で共有する中で、地域の一体感を生み、ふるさとへの愛着を育む事が重要だと考えます。そうした経験から、市民が未来の「おいでん祭」を我がまちのまつりとして捉え、そこで感じた想いや魅力を発信する事が未来へ「おいでん祭」を継承する一歩と考えます。

青年会議所の事業は各委員会が人やまちを想い、立案した事業計画書をもとに行われています。事業計画書という努力の結晶を中立的な立場で、適正に判断し、時に厳しく見極めていく事は、組織がさらに発展するためには必要不可欠です。また、当代第一の事業を展開する中で、活動するメンバーの姿が輝くものであれば、自ずと人やまちに中津川青年会議所の魅力を発信できると考えます。

先輩諸兄が築きあげられた中津川青年会議所があるからこそ、我々は日々人やまちのための活動ができています。この経験こそが個々を成長させ、組織が成長するのだと考えます。成長なくして発展なし。組織が発展するために、私は副理事長として、全メンバーが限られた時間の中で、志を同じうする者と未来に向け挑戦できる機会を提供して参ります。

<まつり委員会>

市民が「おいでん祭」に参加し、ふるさとのまつりとして誇りを持ち、未来を見据えられる事業を構築していただきたい。また、各種関係団体と連携を深め、メンバー一丸となって活動できるよう、企画、運営に責任を持ち行動していただきたい。

<総務委員会>

中津川青年会議所の根幹を担う自覚を持ち、理事会、例会を本質的な議論に集中できる環境を整えていただきたい。また、全メンバーが未来を見据え、会員拡大に取り組む環境を構築していただきたい。